

1市2町広域連携バス「ゆうがおバス」 実証運行について

下野市安全安心課

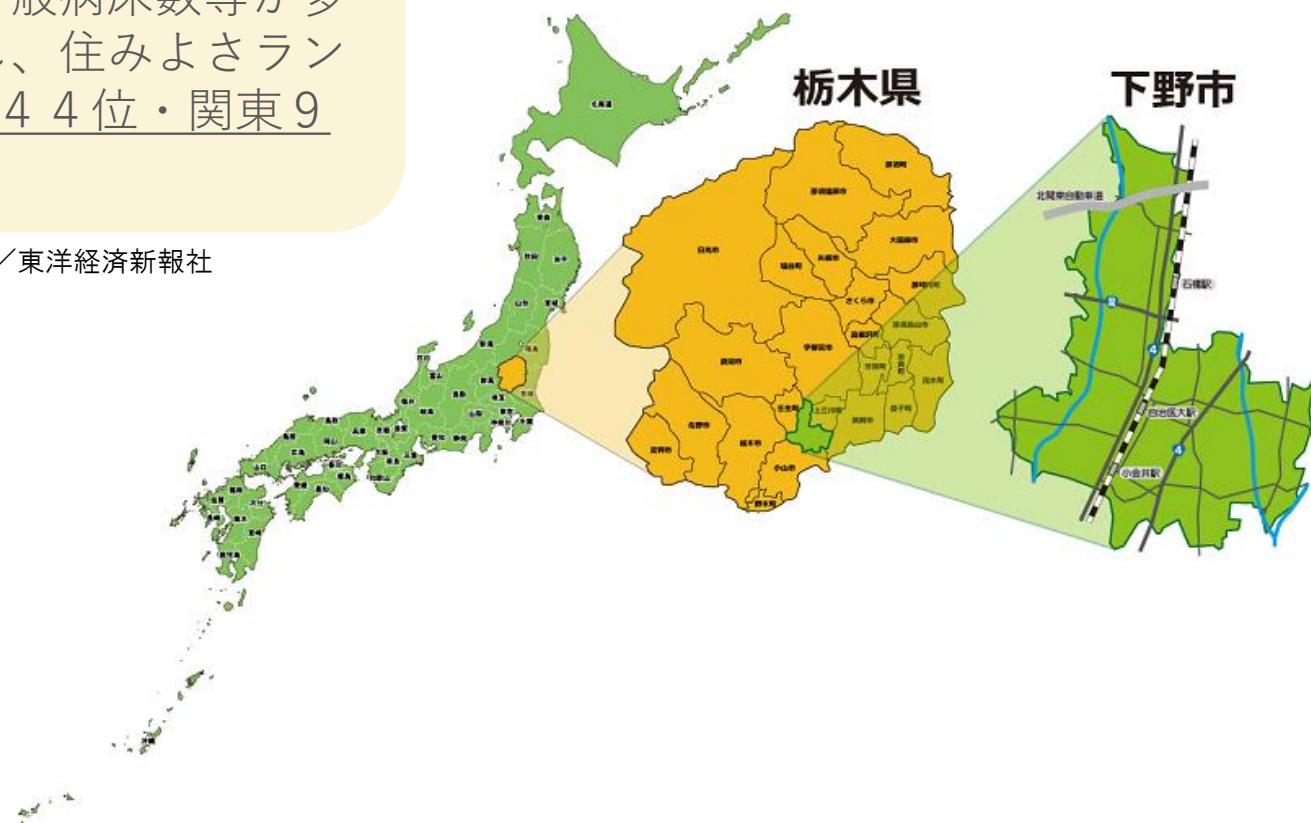
1 下野市の紹介

しもつけ

- 下野市は、栃木県南部に位置する人口60,122人（令和元年6月1日現在）の市
- 東京都心(約85km圏)とは、JR宇都宮線快速等で約70分の通勤圏(小山駅から新幹線利用で約40分)
- 人口当りの医師数・一般病床数等が多い等医療機関が充実し、住みよさランキング※では、全国第44位・関東9位・北関東1位

※ DataBankSERIES 2019 都市データパック／東洋経済新報社

下野市の位置



2 下野市の公共交通

- 下野市ではJR宇都宮線を中心に、路線バスが3路線、他市のコミュニティバス1路線、デマンドバス「おでかけ号」等が運行
- 令和元年10月からは広域連携バス「ゆうがおバス」が実証運行を開始

主な公共交通機関

	事業者	路線等
鉄道	JR	JR宇都宮線 (小金井駅・自治医大駅・石橋駅)
路線バス	関東自動車バス	・宇都宮-石橋線 ・石橋-真岡線 ・自治医大線
広域連携バス	下野市・上三川町・壬生町	ゆうがおバス ・JR石橋駅～獨協医科大学病院 ・JR石橋駅～上三川町ゆうきが丘団地
コミュニティバス	小山市	おーバス羽川線
デマンドバス	下野市	おでかけ号 市内全域 (3エリア)

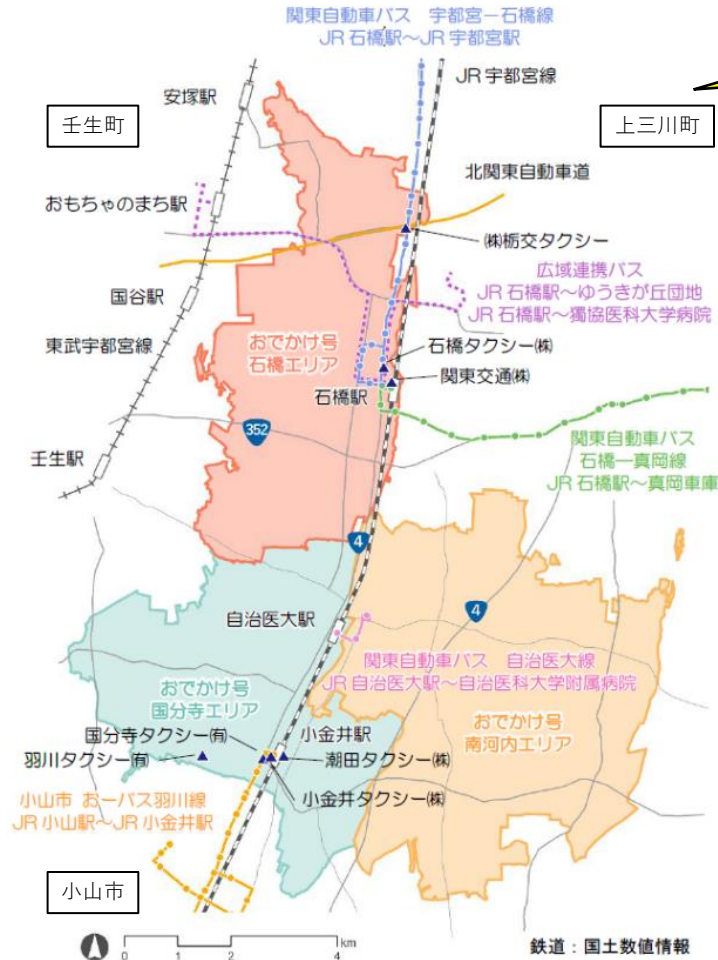
下野市が運行する公共交通

きらら号・ふれあい号 2012年3月 運行終了
 温浴施設「きらら館 (現在、温浴施設は廃止)」 「ふれあい館」への送迎を主な目的とした循環型コミュニティバス

2011年11月 運行開始 **おでかけ号**
 デマンド型のバス 予約に応じて、自宅から目的地までの運行が基本
 ただしエリアを超える利用では、乗り継ぎが必要 (一部目的地は乗り入れ可能)

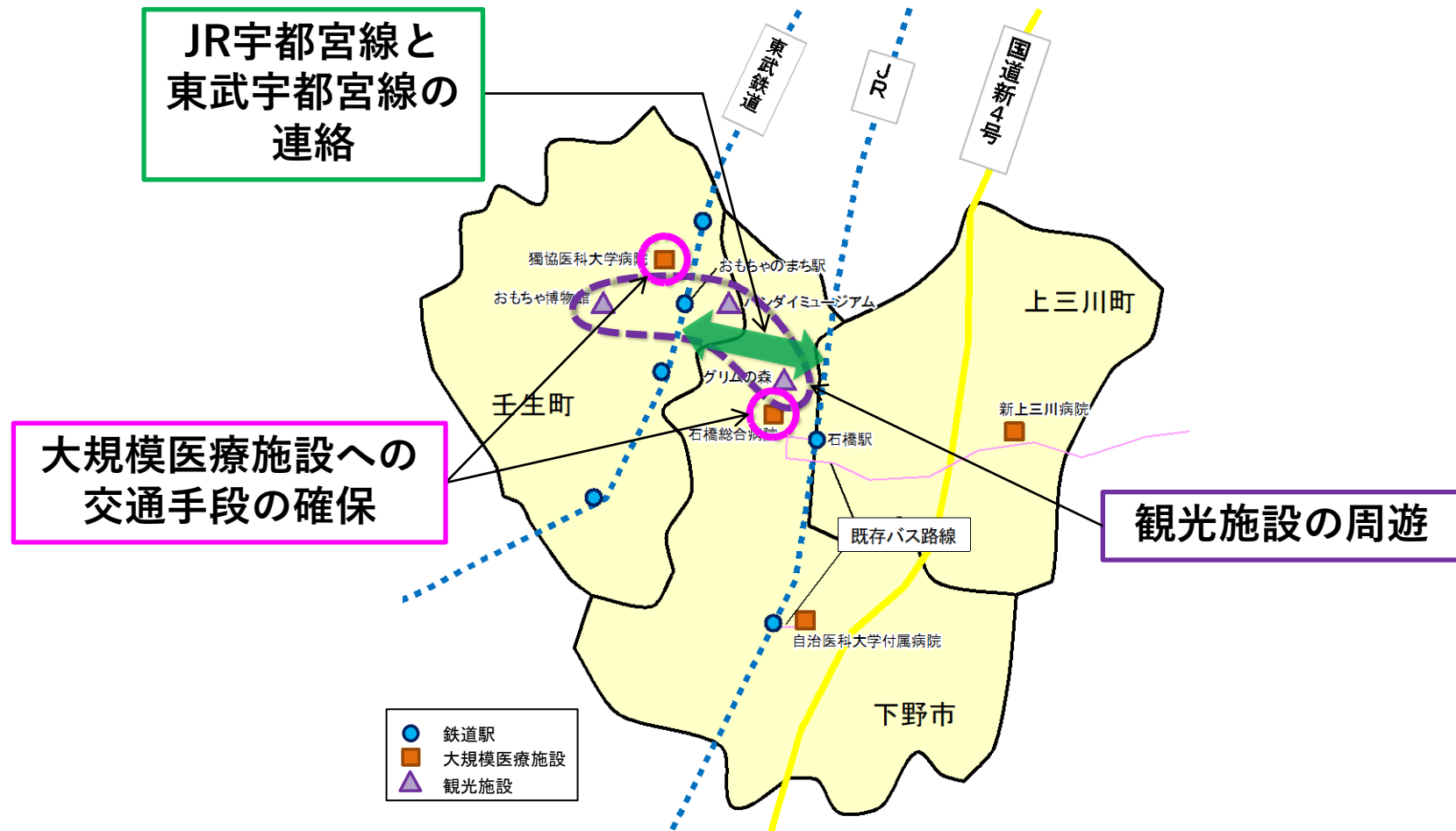
2019年10月 運行開始 **ゆうがおバス**
 下野市・上三川町・壬生町の1市2町が運行委託する

公共交通網



3 行政区域を超えた交通課題

- 下野市と隣接する上三川町、壬生町には鉄道、大規模医療施設、観光施設が分散
- これら施設への行政区域を超えた交通需要への対応が必要



下野市と壬生町・上三川町との連携について

- 下野市・上三川町・壬生町は、半径約7kmのエリアに収まる地理的近接性があり、エリア内には、2つの大学病院、グローバル企業の工場及び多彩な歴史文化遺産等に恵まれている。
- 平坦で災害が少なく暮らしやすい土地柄であることや、東京圏からのアクセスをはじめ交通の利便性が高い地域であることなど、類似点が多く、かねてより経済・文化・消防など多くの面で密接な関係を築いてきた。
(石橋地区消防組合、定期歴史講座の共同開催など)
- 平成27年には、地域振興や定住促進などの共通する行政課題等について意見や情報を交換し、一体となった課題解決策等の検討を行うことを目的に、下野市、上三川町及び壬生町の1市2町により「下野市・上三川町・壬生町連携会議」を設置した。
- 平成28年からは、東京圏の女性と地域の男性がバスで1市2町を巡る婚活ツアーや、エリアに集積する古墳群等の資源を活かした回遊促進等、実現可能な分野から課題解決に向けた連携事業に着手しており、一定の手応えを得ている。
- 地域関係者間でまちづくり分野等における今後の更なる連携に向けた機運が醸成されつつある。

4 「ゆうがおバス」の導入経緯

- 下野市、上三川町、壬生町では、各市町が運行するデマンドバスでは行政区域を超えた運行が困難として、広域連携バス「ゆうがおバス」の運行を開始

JR宇都宮線と東武宇都宮線の連絡やデマンドバスの各市町の区域外への運行を希望する声が多くあがり、**行政区を超えたサービス提供の必要性**を認識

H26年9月

1市2町で勉強会を開催：各市町のデマンドバスの相互連携は困難であると結論づけ、新たな運行システムの導入を視野に検討をする方針を打ち出す

H27年度

栃木県調査のモデルケース路線候補となり、需要調査（住民アンケート調査）を実施

H28年4月

モデルケース路線として選定

H28-H29年度

検討会議6回開催（アンケート調査結果及び需要予測、運行計画についての意見交換（車両形態・運行ルート・経費等）

H30年度

「公共交通広域ネットワーク改善検討協議会」を設置し、6回開催（運行開始時期・運行ルート・ダイヤの詳細・費用分担等の決定（各市町提出要望を基に事業者が案を提示、意見交換） ※検討協議会の他、各市町担当で打合せ

R元年6月

プロポーザルにより運行事業者が関東自動車に決定

R元年9月

市長定例記者会見で愛称（ゆうがおバス）と運行ルートを発表

R元年10月

運行開始

実証運行として3年程度を予定、利用状況を踏まえて本格運行へ移行する

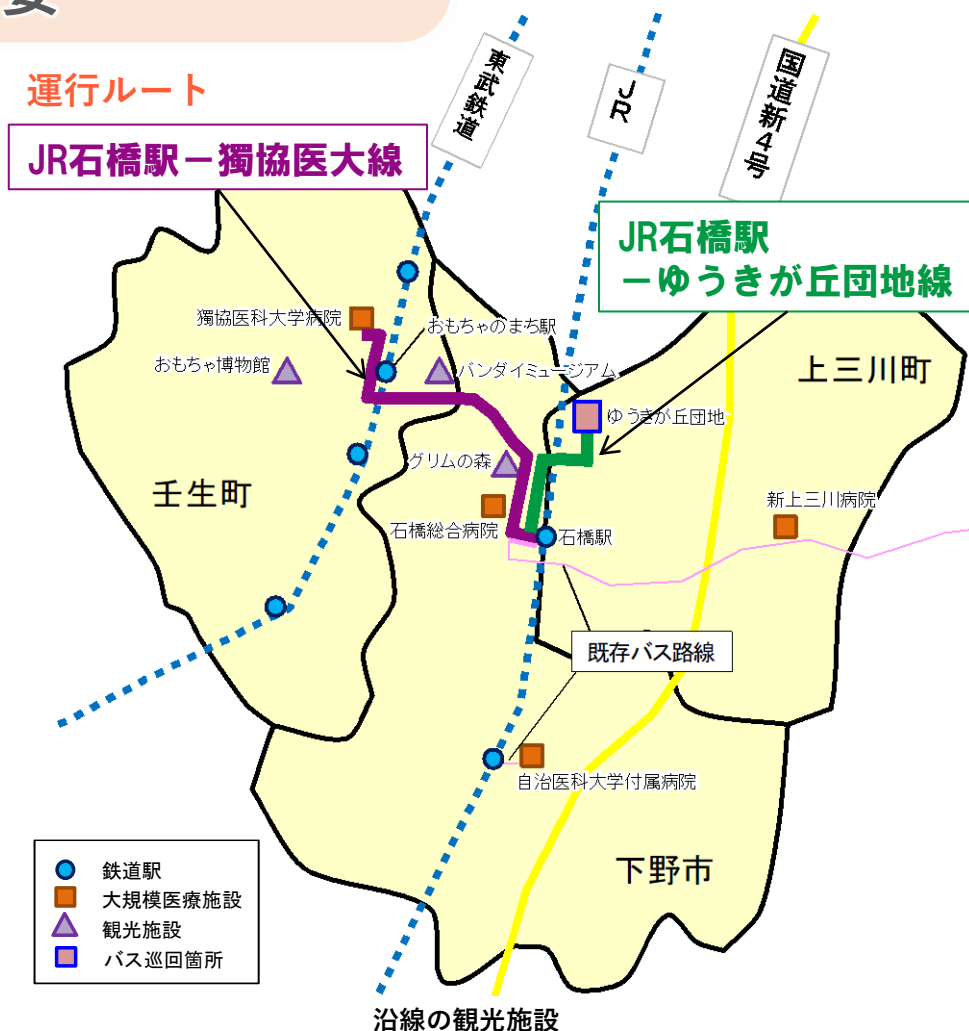
5 「ゆうがおバス」の運行概要

- JR線から東武線への経路、獨協医大病院への移動が確保され、1市2町エリアにおける相互交流の活発化が期待される。
- 沿線の観光施設等とも連携しながら、東京圏等からの訪問者数の増加につなげる。

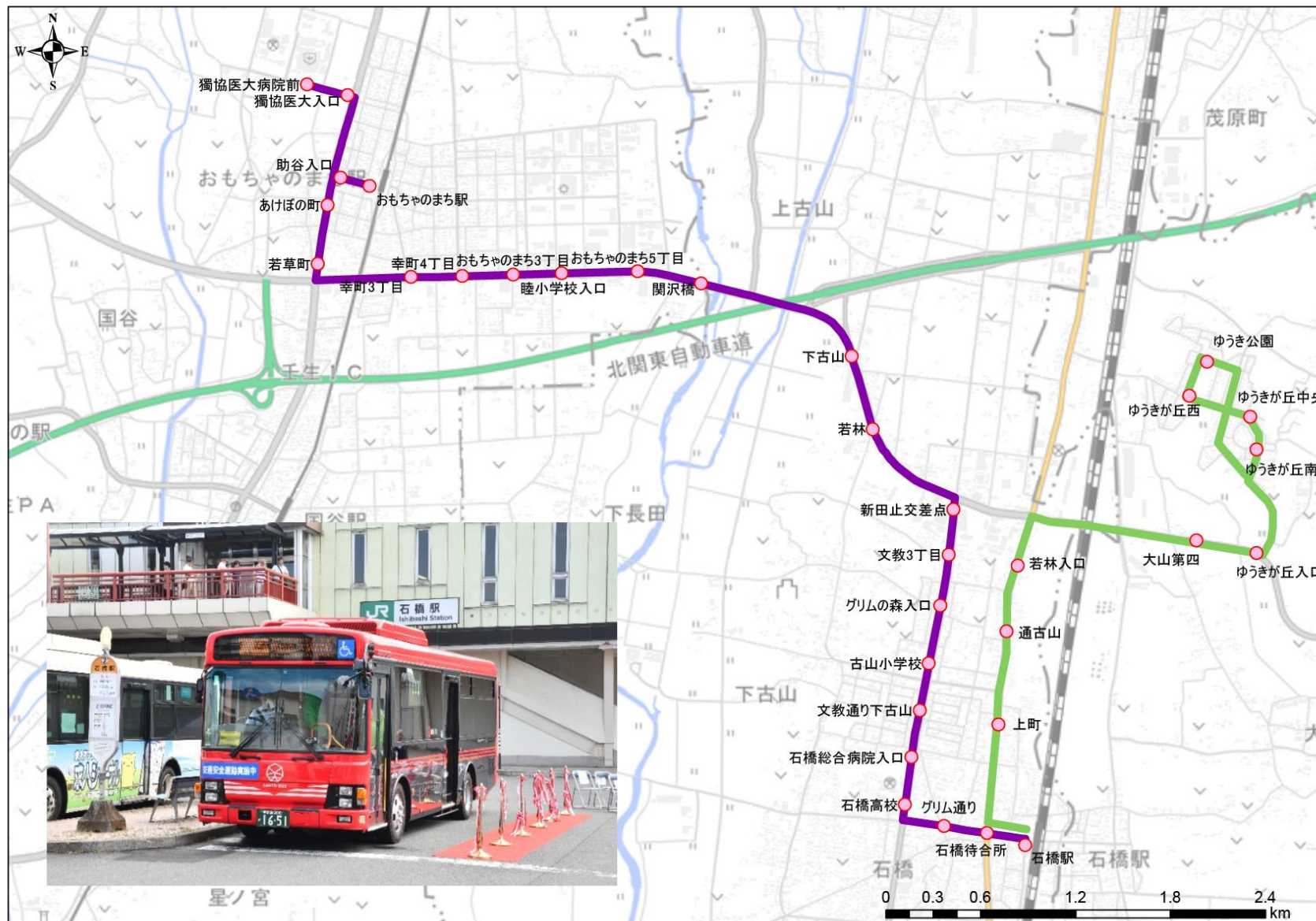
運行概要

路線	JR石橋駅 －獨協医大線	JR石橋駅 －ゆうきが丘団地線
系統キロ	7.9km (下野市4.1km、壬生町3.8km)	9.0km (循環線) (下野市4.8km、上三川町4.2km)
便数	平日9往復 休日4往復	平日8循環 休日5循環
大人料金	180～440円	180～290円
1ヶ月平均利用者数	2733人/月	232人/月

※平均利用者数はR.1.10～R.2.3の利用実績



- 下野市のJR石橋駅を起点に壬生町の獨協医科大学病院行きの7.9キロのルート
- 上三川町のゆうきが丘団地行きの循環線9キロのルート
- 停留所は59カ所でそのうち36カ所が新しく設置された



6 利用促進のための取組

● ゆうがおバスの利用を促進するため、地域住民向け、来訪者向けのPRを実施

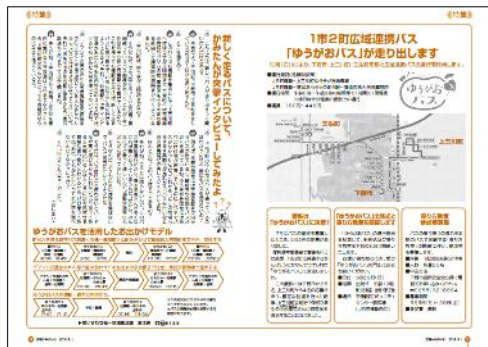
地域住民向け

○広報誌による周知：実証運行の開始に合わせ、各市町の広報誌(R1.9月号)に特集記事を掲載

下野市

上三川町

壬生町



○交通マップの配布：ルートや時刻表を掲載した交通マップを配布



来訪者向け

○ 1市2町PR映像作成

- ・ 広域連携バスの沿線を中心に、1市2町の魅力（人・観光・健康・仕事など）をPRするための映像を作成
- ・ ケーブルテレビ（栃木チャンネル）で3/30・3/31に放送
- ・ 後日ホームページから視聴できるようにするほか、移住定住セミナー等で活用していくことを想定



7 運行実績

- 1 ゆうがおバス乗車人数・運賃収入実績（令和元年10月～令和2年3月）
 - 石橋駅～獨協医科大学病院往復線
 - 乗車人数：16,398人（年換算33,000人）
 - 運賃収入：4,395,859円（年換算880万円）
 - 石橋駅～ゆうきが丘循環線
 - 乗車人数：1,392人（年換算2,800人）
 - 運賃収入：373,613円（年換算75万円）

- 2 運行精算委託料・市町負担額
 - バス運行精算委託料（運賃収入等を差し引いた額）：9,386,150円
 - 各市町負担金額（バス精算委託料・利用促進費合計10,913,066円を案分）
 - 下野市5,716,264円、上三川町1,712,260円、壬生町3,484,542円
 - うち2分の1が地方創生推進交付金で交付（市最終負担額 約286万円）

◇負担金積算内訳

- ・バス運行経費（運行業務委託料）14,467,200円（A）
 - 運賃収入等 5,081,050円（B）
 - 差引精算委託料 9,386,150円（A - B）①
 - ・バス利用促進費（交通マップ・ポスター作成等）1,526,916円 ②
 - ・バス精算委託料・利用促進費合計 ①+② 10,913,066円
- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| ○ <u>下野市負担</u> | 10,913,066円 × 52.38% = 5,716,264円 |
| ○ <u>上三川町負担</u> | 10,913,066円 × 15.69% = 1,712,260円 |
| ○ <u>壬生町負担</u> | 10,913,066円 × 31.93% = 3,484,542円 |

各市町の分担比率は、各市町の行政区域内を運行する実車走行キロから設定

8 今後の展望

- 「ゆうがおバス」により、地域住民の生活交通及び広域観光形成の両面から、東京圏等からの移住・定住の促進や、広域周遊観光、さらにはコンパクトなまちづくりなどの施策を連動させ、一体的に推進していく予定
- 今後は、通勤・通学での利用や、日常の買い物等に利用する固定客層の定着に向けて、実証運行1年目で得られた乗降データ及びアンケート結果を踏まえ、2年目以降はより利用客数が見込める経路へ見直しを図り、「ゆうがおバス」が地域の皆様に愛され、誰もが身近に利用できる日常生活の足となるよう、目指す

< 参考資料 >

■ 石橋駅・おもちゃのまち駅・獨協医大病院

年月		令和元年10月	11月	12月	令和2年1月	2月	3月	年度合計
運行実績								
運行日数 (日)	A	30	30	31	31	29	31	182
運行回数 (回)	B	449	440	448	438	412	458	2,645
平均運行回数 (往復)	$\frac{C}{(B/A/2)}$	7.4	7.3	7.2	7.0	7.1	7.3	7.2
実車走行キロ (km)	D	3457.3	3388.0	3449.6	3372.6	3172.4	3526.6	20366.5
輸送人員 (人)	—	3,117	2,783	3,167	2,576	2,499	2,256	16,398
平均乗車密度	E	3.2	2.9	3.4	2.9	2.7	1.9	2.8
輸送量	$\frac{F}{(C \times E)}$	23.6	21.1	24.4	20.3	19.1	13.8	20.1

■ 石橋駅・ゆうきが丘循環・石橋駅

年月		令和元年10月	11月	12月	令和2年1月	2月	3月	年度合計
運行実績								
運行日数 (日)	A	31	30	31	31	29	31	183
運行回数 (回)	B	217	210	214	209	199	218	1,267
平均運行回数 (循環)	$\frac{C}{(B/A)}$	7.0	7.0	6.9	6.7	6.8	7.0	6.9
実車走行キロ (km)	D	1866.2	1892.0	1840.4	1797.4	1711.4	1874.8	10982.2
輸送人員 (人)	—	299	252	269	193	217	162	1,392
平均乗車密度	E	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.3	0.5
輸送量	$\frac{F}{(C \times E)}$	4.2	4.2	4.1	3.3	3.4	2.1	3.4